

出前市長室提言記録簿(9月29日開設)

No.	提言者		提言内容	対応(市長等発言内容)
	男・女	年齢		
1	男	66	新聞で義務教育学校について報道されていたが、9年生となれば教員の配置にも影響し、県との調整も必要となってくるが、どのようなことを目指しているか。また、義務教育の9年間一緒に過ごすことで、他地域の児童・生徒とも交流が進むと思われる。そういった意味でも学校区を外し、特区として自由に学校を選択し通学できるようなことも必要でないかと思う。もし、見えるものがあれば、市長の考えを聞きたい。	学校が変わること起こる中1ギャップを解消するために、9年生のカリキュラムを組み、小・中一貫教育をモデル的に実施している学校もあるが、一般的な30~40学級での一貫教育ではなく、利賀や井口のような小規模校を義務教育学校として進めていきたいと考えている。義務教育学校のシステムを市で練り込んだ上で、県と協議し、調整しながら、まずは2地域に限って、南砺市の望むべき小・中学校のあり方を作り上げていきたいと思っている。 学校区については、義務教育学校の成果を検討する中で、本来どのように考えなければいけないのか詰めていく必要がある。今のところ南砺市では、すぐに学校区を廃止するということは考えていない。他地域から来ることについては、今までどおりの中で調整をさせてもらい、お互い考えていく方向に進めたい。
2	女	65	以前、発達障害児の支援についてお聞きしたときに、わらび学園が、支援センター的役割を担う施設にしたいと話をされていたが、進捗状況等について聞きたい。	福野地域の広大な敷地に、マーシ園の居宅型の施設を建設中だが、そこに青葉幼稚園やわらび学園ができ、文教ゾーンとして様々な人が集う場所にしていきたい。施設は直ぐに建設できるが、小児用の精神科医の配置は確定的なものではない。砺波、小矢部、南砺が1つになってお願いしているところであり、総合支援学校とのタイアップも含め少しずつ前に進んでいる。
3	男	59	平成30年に県立高校の再編が予定され、1学年4クラス未満の学校が対象に検討されていると聞いている。福光高校もその対象とならないか心配している。新聞では、上市町長が富山県全体を見て、小さな学校だけでなく、大きな学校も含め検討すればどうかとの発言が報じられた。井波高校のようにならないよう、市長がリーダーシップを取り動いて欲しい。	町村会長として上市町長が発言されたが、高岡市長も統合ありきではないと言われている。県では年度内に方向性を出したいということから、高校名ではなく4クラスという基準を出してきた。南砺市では福光高校と平高校が対象となるが、入学する人の気持ちにも影響が出るので、それらの話は一度撤回するよう言っている。高校再編は行財政改革でなく、教育としての決め方が有るのではないかと思う。県が今後どのような動きをするかまだ分からないが、特色のある高校として、2校とも存続して欲しいということは伝えてある。
4	女	65	私の知り合いが、夫に介護を頼んだが面倒を見られなくなりグループホームに入ることになった。私の家でも、夫に出来ることを手伝ってもらいながら姑の介護をしているが、男性だけで見て欲しいといっても、中途半端なことしかできない。男性に意識改革をしてもらい、介護講習などを受けてもらえるようにならないか。	男性や女性だけといった対象を限定した対応はしていない。介護が必要な方の家庭に対し、ケアマネージャーなど複数人チームに入ったケア会議等を開くなどの窓口は広げてある。病院に行っている方は、そこから情報が入ってくるが、家にいる方は、近所の方や地域の方の声かけにより、その情報を市へ繋いでいただくことが地域包括のスタートだと考えている。
5	女	65	新しくできる地域包括ケアセンターに、現在の地域包括課が入っても施設に余裕があると思うが、どんな使い方をするのか。	地域包括医療ケア部の中から、現在井口にある地域包括支援センターや地域包括ケア課、福野にある医療課の他、福祉課、健康課などすべてそこに入る。その施設に連絡すると、福祉、健康、介護の全てが連携できるようになり、相談室やネットワークも出来ている。高齢者のための地域包括ケアだけでなく、生活困窮者や子育て世代にも展開できる仕組みにし、介護が必要な人たちのための地域ネットワークだけでなく、他の世代にも声をかけられるシステムを作っていきたい。

出前市長室提言記録簿(9月29日開設)

No.	提言者		提言内容	対応(市長等発言内容)
	男・女	年齢		
6	男	63	地域の安全・安心のために、消防団一丸となって地域の防火防災に取り組んでいる。当地域のポンプ車は23年前に導入されたものだが、使用頻度も高く、1年でも早く更新をお願いしたい。	市内の消防団のポンプ車は、平成5～6年に導入したものが多かったと思う。過去に、全国操法大会でポンプ車から水が出なかったこともあり、十分に手入れをしていても、見えないところで老朽化していく。更新の時期については担当課に確認する。
7	男	75	市長自身は、庁舎を統合する気持ちを持ち、各地域の意見を聞いているが、現在はどのような状況か。	様々な意見があるが、最初に決めなければいけないのは場所の問題である。福野や福光では地元でという意見が多いが、市の中心に近い施設用地に建設してはどうかという意見もある。他の施設を再利用するご意見もあるが、耐震化され利用できる庁舎があるのに、わざわざ体育館等を改修するのは意味の無い話である。多くの意見を聞いて、財源を確保し、議会と相談し、将来の可能性も積み上げていかなければいけない。30年後の世の中はどのようなになっているか分からない現状の中で、庁舎を建設するとその場所で少なくとも60～70年やっていかなければいけない。新築で庁舎を建設するというより、今ある施設を利用し、少しでも初期投資を抑え、無駄を少なくしていきたい。
8	男	61	私の職場で富山在住の人から、新庁舎は耐震化がされている福光庁舎で決定しているのではないかと問われたが、実際はどうか。	現在、全ての庁舎は耐震構造になっている。福光に決まったということではなく、庁舎再編の資料の中で60年のライフサイクルコストを比べると一番高いのは新築で、一番安いのが建築年数が最も若い福光庁舎ということである。石川県庁のように何も無かった所に町ができるという意見もあるが、裏を返せば今ある商店街が寂れていくということにもなり、4町の商店街をどうするかも一緒に考えていかなければいけない。働き手を取り合ひし、庁舎周辺にどんどん店が入ってくる人口形態ではない時代の中で、慎重にまちづくりを考えていかなければいけない。
9	女	58	今まで介護の悩みなどを井口の庁舎で相談できたが、これからは井波に行くことになる。高齢者の足としての公共交通機関はどのように考えているか。	今まで井口に地域包括課があるからといって、各地域から皆さんが井口に来られるのではない。それぞれの地域に担当があり、連絡が入れば一番近いところで相談ができる仕組みを作っていかなければいけない。拠点を1つにして、今までと変らないサービスを提供しなければいけない。距離が離れていても当然そこへ行かなければいけないこともあり得るので、庁舎が変わることも加味して公共交通のあり方を検討していきたい。